

第1 「目指す学校」

東京都教育委員会の教育目標に基づき、本校42年の歴史と伝統を踏まえ、校訓「叡智・敬愛・剛健・自律」を実現して、生徒・保護者・地域の期待に応えるため、次のような学校を目指す。

【教育目標】「叡智・敬愛・剛健・自律」

- (1) 個性と能力の伸長を図り、知性と創造力を育てる。
- (2) 互いに人格を尊重し、思いやりと協力の精神を培う。
- (3) 身体を鍛えるとともに、たくましく豊かな情操を養う。
- (4) 自ら正しく判断し、勇気と責任ある行動をする。

【スクール・ミッション】(設置者が各学校と連携し、在籍する生徒の状況や期待に加え、各学校の歴史や伝統、社会や地域の実情を踏まえて、各学校に期待されている役割、目指すべき学校像を目指すもの)

学力の向上と定着、応用力の育成と自ら学ぶ力の育成を目指す生徒のための学校として、部活動や学校行事等の様々な教育活動や、地域行事への協力、近隣の小学校、中学校、特別支援学校との交流を深めることを通して、グローバル社会に対応し、多様な人々とコミュニケーションが取れる人材を育成します。

【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す資質・能力に関する方針)

- ・ 高度な情報を管理する能力や自他を尊重し、社会に貢献しようとする意欲を有する人間の育成
- ・ 常に変化し続ける社会における様々な状況の中で、的確に状況を判断し、未来を切り拓く能力を身に付け、グローバルな社会で活躍できる人間の育成

【アドミッション・ポリシー】(入学者の受入れに関する方針)

本校は「叡智、敬愛、剛健、自律」を校訓に、親身でていねいな個に応じた指導により、変化の激しい社会を生き抜く思考力、判断力、表現力や創造力を育てるため、次のような生徒を期待する。

- ・ 知性や能力を伸ばすために、授業に積極的に参加し、予習・復習など自主的な学習習慣のある生徒
- ・ 大学進学等の進路実現のために、意欲的に学習に取り組む生徒
- ・ 特別活動、部活動等に積極的に参加し、思いやりと協調の精神を培い、責任ある行動をする生徒
- ・ いろいろなことにチャレンジして、自らの力で可能性を切り拓いていく生徒

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- ・ 人間尊重の精神に基づき、生徒一人一人のよさを認め、個性や能力を最大限に伸ばす。
- ・ 知識基盤社会を生きる学力を育成するとともに、学校行事や部活動などにおける活発な教育活動を通して、「徳」「知」「体」の調和のとれた生きる基盤を培い、将来に向けてより高い目標を定めて進路を実現する。
- ・ 親身でていねいな、個に応じた指導により、変化の激しい社会を生き抜く思考力・判断力・表現力や創造力等を育てる。
- ・ 学校行事や部活動及び道德教育・「人間と社会」などを通して、生徒相互の理解と啓発を図り、社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする意欲を高める。
- ・ 開かれた学校として、学校、家庭、地域・社会が相互に連携・協力して、ともに生徒を育てる。

第2 「中期的目標と方策」について

1 学習指導

(1) 目標	(2) 方策
適切な教育課程編成及び指導と評価の一体化	ア 教育課程の柔軟化 イ 評価規準・基準の統一と透明化 ウ 教職員の共通理解の深化 エ 協働指導の実践 オ 自己評価の導入

2 生活指導

(1) 目標	(2) 方策
規律と秩序の整った教育環境の創出	ア 明確な校則の設定と周知 イ 時間厳守の徹底 ウ 清掃活動の推進 エ 礼儀作法の教育 オ 部活動を通じた規律と尊敬の意識向上

3 特別活動

(1) 目標	(2) 方策
生徒の自尊感情向上及び不撓不屈の精神の涵養	ア 自己肯定感を高める活動 イ 目標設定と達成の経験 ウ コミュニケーション能力の向上 エ 挑戦する機会の提供 オ 振り返り活動

4 健康教育

(1) 目標	(2) 方策
安心して通える学校づくり	ア いじめや暴力のない環境の整備 イ 防災教育と防災対策の推進 ウ 安全な通学環境の確保 エ 支援を必要とする生徒への組織的対応 オ 情報モラル教育の推進

5 進路指導

(1) 目標	(2) 方策
学力向上と個に応じた進路指導	ア 基礎学力の定着と応用力の育成 イ 個に応じた進路指導と学習支援の充実 ウ 学習意欲を高めるキャリア教育の推進 エ 家庭・地域と連携した進路・学習支援 オ 学習成果と進路指導の継続的な見直し

6 広報活動

(1) 目標	(2) 方策
学校の特色・魅力の周知及び第一志望の受検生の増加	ア 学校公開及び体験入学の実施: イ SNS やウェブサイトの活用 ウ 在校生・卒業生の活用 エ 地域との連携 オ 特色ある教育プログラムの開発

7 組織運営

(1) 目標	(2) 方策
盤石な組織体制の構築	ア 明確な役割分担と協力体制の強化 イ 意思決定プロセスの透明化と迅速化 ウ 学校運営におけるリーダーシップの強化 エ 継続的な学校評価と改善の実施 オ 教職員の専門性向上と研修の充実

8 働き方改革

(1) 目標	(2) 方策
働きやすい職場づくり	ア 勤務時間の適正化（長時間労働の是正） イ 業務の見直しと負担軽減 ウ ICT の活用と業務効率の向上 エ 働きやすい職場環境の整備 オ 学校・保護者・地域との協力体制の構築

第3 「今年度の取組目標と具体的方策」

本校の特色化を推進し、魅力ある学校づくりを推進するために、今年度は、都の教育施策のうち、主に以下の4事業を活用する。

- A 海外学校間交流推進校（オンライン等による海外の学校との交流、新規）
- B 外部検定試験実施校（英検 S-CBT 方式の全員受験、新規）
- C 西部学校経営支援センター特別指定校（学習指導の充実、指定2年目）
- D 探究的な学び推進事業【TIPS-Type4】対象校（外部人材の活用、新規）

1 学習指導「適切な教育課程編成及び指導と評価の一体化」

（1）取組目標

ア 教育課程の柔軟化

- 生徒のニーズに応じて必修・自由選択科目の拡充に努めていく。
- オンライン学習やプロジェクトベースの学習を導入し、多様な学習スタイルに対応する。

イ 評価規準・基準の統一と透明化

- 評価規準及び基準を明確にし、全教職員で共有する。
- 生徒や保護者に規準・基準を公開し、理解を深める。

ウ 教職員の共通理解の深化

- 定期的に研修やワークショップを開催し、教育方針や評価規準・基準についての理解を深める。
- 教職員間のコミュニケーションを促進し、情報共有を徹底する。

エ 教員による協働指導の実践

- チームティーチングやコラボレーション授業（クロスカリキュラム）を導入し、複数の教員が連携して指導する。
- 教職員間での定期的なミーティングを行い、生徒の学習状況を共有し、支援策を検討する。

オ 生徒の自己評価の導入

- 自己評価シートやポートフォリオを活用し、生徒が自分の学習を振り返る機会を提供する。
- 定期的な自己評価の時間を設け、生徒が目標設定や達成度を確認できるようにする。

（2）具体的方策

- A グランドデザインの見直し、ループリックの整理、全教職員の「本校で育てようとする生徒の資質・能力」への理解促進
- B 教科主任会の適時開催（学期に2回程度）
- C 教科会の定例化（月1回以上）、公平で適正な評価規準及び基準の設定、点検業務の徹底、定期考査問題の共通化を検討
- D 教員相互の授業参観・研究授業・研究協議の実施（一人当たり年3回以上、学期ごとにコメント集約）
- E 生徒による授業評価の実施（Formsの活用、Excelでの集計、年2回）
- F 管理職による授業観察後のフィードバック、各教員の自己分析（Excelシート活用、成果と課題の検証、年2回以上）
- G 2年生の「総合的な探究の時間」グループ別プロジェクト型地域探究学習を実施（後期、9時間程度）
全教員が「総合的な探究の時間」（「人間と社会」を含む）の指導を担当
- H 多様な体験学習の機会の提供（国際交流、語学研修、被災地訪問等）
- I 校内研修の実施（テーマの例「指導と評価の一体化」「探究的な学びの指導の在り方」等）

2 生活指導「規律と秩序の整った教育環境の創出」

(1) 取組目標

ア 明確な校則の設定と周知

- 校則を明文化し、その内容を生徒手帳やホームページ等で周知する。
- 生徒集会や保護者会の機会を通じ、校則に記されている指導方針の意図について丁寧に説明する。

イ 時間厳守の徹底

- 授業はチャイムとともに開始し、チャイムとともに終了することで、生徒の時間厳守を促す。
- 遅刻者には理由を確認し、正当な理由がないものについては、機を逸することなく指導を行う。

ウ 清掃活動の推進

- 美化担当者は、清掃区域や頻度、必要な資材や人員についての計画を立てるとともに、美化委員会の生徒が主体的に活動できるよう支援する。
- 清掃監督者は、生徒とともに行動し、生徒が正しく清掃活動ができるよう支援していく。

エ 礼儀作法の教育

- 礼儀作法に関する授業やワークショップを開催する。
- 日常の学校生活で礼儀作法を実践する機会を設ける。

オ 部活動を通じた規律と尊敬の意識向上

- 部活動のルールを明確にし、全員が守るよう指導する。
- 部活動内でのリーダーシップやチームワークを重視し、尊敬の念を育む。

(2) 具体的方策

- A 本校の生活指導規定を周知・徹底（年度当初、全教員）
- B 問題行動は早期発見・早期対応が鉄則、迅速に対応（通年、生徒観察、全教員）
- C 人により生徒対応の基準が変わることなく、ブレない指導を実践（通年、全教員）
- D 身だしなみ（頭髪・服装・化粧）指導の実施（毎朝、定期考査期間、諸行事実施時等、全教員）
- E 学年・生活指導部で連携した遅刻者指導（一定期間内の回数に応じた段階的な指導）
- F 私語・居眠りの禁止等、授業規律の徹底、授業開始・終了時刻の厳守（毎時、全教員）
- G 生徒の自律性を引き出す、委員会・当番活動指導（担当教職員）
- H 教職員の連携及び生徒会役員・委員会・部長等リーダー層の生徒の自覚を促す指導（通年、全教員）

3 特別活動「生徒の自尊感情向上及び不撓不屈の精神の涵養」

(1) 取組目標

ア 自己肯定感を高める活動

- 生徒の成功体験を積極的に認め、賞賛する場を設ける。
- 自己肯定感を高めるためのワークショップやカウンセリングを実施する。

イ 目標設定と達成の経験

- SMART（具体的、測定可能、達成可能、関連性、期限）目標を設定する指導を行う。
- 目標達成に向けた計画を立て、進捗を定期的に確認する。

ウ コミュニケーション能力の向上

- ディスカッションやディベートの機会を増やし、意見交換を促進する。
- ロールプレイやグループワークを通じて、実践的なコミュニケーションスキルを養う。

エ 挑戦する機会の提供

- 新しいプロジェクトや課題に挑戦する機会を提供する。
- 挑戦の過程で得られる学びや経験を重視し、失敗を前向きに捉える文化を育む。

オ 振り返り活動

○定期的な振り返りの時間を設け、学習や活動の成果を自己評価する。

○振り返りシートやジャーナルを活用し、自己成長を記録する。

(2) 具体的方策

- A 成功体験の共有会（クラスや学校全体で成功体験を共有する会、生徒同士が互いに称賛し合う場）
- B ポジティブノート（生徒が日々の小さな成功やポジティブな出来事を記録するノート）
- C 目標達成チャート（教室に目標達成チャート設置、生徒が目標に向かって進捗を視覚的に確認）
- D 目標達成パートナー（生徒同士のパートナー、お互いに励まし合いながら目標に向かって取り組む）
- E 多様なディスカッションテーマの設定（生徒が多角的な視点をもつように促す）
- F フィードバックセッション（ディスカッションやディベートの後に、生徒が自分のコミュニケーションスキルを振り返る機会を提供）
- G プロジェクトベース学習（実際の問題解決をテーマにしたプロジェクトを通じて、生徒が新しい挑戦に取り組む機会を提供）
- H チャレンジデー（生徒が普段とは異なる活動に挑戦する日）
- I 振り返りジャーナル（生徒が定期的に自分の学びや成長を記録するジャーナル、自己評価を促す）
- J グループ振り返りセッション（クラス全体で、互いの学びを共有し合う場を設ける）

4 健康教育「安心して通える学校づくり」

(1) 取組目標

ア いじめや暴力のない環境の整備

○いじめ防止対策委員会を設置し、定期的な調査と対策を実施する。

○生徒や保護者に対していじめ防止の啓発活動を行う。

イ 防災教育と防災対策の推進

○定期的に避難訓練を実施し、避難経路や避難方法を確認する。

○防災教育を通じて、災害時の対応方法を学ぶ。

ウ 安全な通学環境の確保

○定期的に通学路の安全点検を行い、危険箇所を把握する。

○地域の警察や保護者と連携し、適宜通学時に巡回する。

エ 支援を必要とする生徒への組織的対応

○支援を要する生徒の個別支援計画を作成し、カウンセリングや家庭訪問を行う。

○オルタナティブ教育プログラムを提供し、柔軟な学習環境を整える。

オ 情報モラル教育の推進

○情報モラルに関する授業を実施し、適切なネット利用の方法を教える。

○保護者向けの情報モラル講座を開催し、家庭での指導方法を共有する。

(2) 具体的方策

- A 生徒指導提要の活用（全員に冊子又は電子データを配布）
- B 支援を必要とする生徒の対応マニュアルの作成・更新と周知（通年）
- C 組織支援体制の充実、特別支援教育コーディネーター1名増員（養護教諭+教員2名）
- D 特別支援教育推進委員会の開催（月1回の定例会及びケース会議等：随時）
- E コンディションレポートを活用した生徒の状況把握と観察（通年）
- G 関係諸機関との連携、「個別の支援計画」の作成（適宜）
- H セーフティ教室の開催（情報モラル、薬物乱用防止、交通安全教室等、学期に1回）
- I 避難訓練（全学年、年3回）及び地域と連携した防災訓練（1学年1回）の実施
- J 精神科医やエリアネットワークコーディネーター等、有識者を招聘した悉皆の校内研修開催（年2回）

5 進路指導「学力向上と個に応じた進路指導」

(1) 取組目標

ア 基礎学力の定着と応用力の育成

- 定期的な小テストや復習セッションを通じて、基本的な知識を確実に身につける。
- プロジェクトベースの学習や問題解決型の課題を取り入れ、実践的なスキルを養う。

イ 個に応じた進路指導と学習支援の充実

- 生徒一人ひとりの興味や適性に応じた進路相談を行う。
- 学習の進捗に応じた個別指導や補習クラスを提供する。

ウ 学習意欲を高めるキャリア教育の推進

- 職業体験や企業訪問、キャリアガイダンスを通じて、将来の目標を明確にする。
- 成功体験を積み重ねることで、学習意欲を高める。

エ 家庭・地域と連携した進路・学習支援

- 保護者との定期的な面談や情報共有を行い、家庭での学習支援を強化する。
- 地域のボランティアや企業と協力し、学習支援やキャリア教育の機会を提供する。

オ 学習成果と進路指導の継続的な見直し

- 定期的な評価を行い、その結果をもとに指導方法を見直す。
- 評価結果に基づいて、必要な改善策を迅速に実施する。

(2) 具体的方策

- A 生徒のニーズに応じた進路ガイダンスや講習の実施（年間計画に基づく）
- B 保育・看護等、関係機関と連携した実習の機会提供（適宜）
- C 総合的な探究の時間における進路学習の実施（3年間のキャリア指導計画に基づく）
- D 模擬試験・オンライン学習システム・到達度テスト等を活用した個別指導（通年）
- E 進路指導部主導で生徒の学力分析会を定期的開催（学期に1回程度）
- F 国公立大学志願者の発掘と計画的指導（単年度・中期）
- G 様々な入試に対応する全校指導体制の確立と指導スキルの向上（入学選抜方法の研究・研修）
- H 全生徒が年1回以上英検 S-CBT を受験し、CEFR のスコア推移を定点観測（年度ごと）
- I 各教科における探究学習の推進（通年）
- J 「総合的な探究の時間」における指導体制の充実、及び地域との緊密な連携
教務部から「人間と社会」及び「総合的な探究の時間」のコーディネーター1名配置
教務部・進路指導部等の分掌と関係教員で構成される「探究委員会」委員との綿密な連携
全教員による「総合的な探究の時間」（「人間と社会」を含む）指導

6 広報活動「学校の特色・魅力の周知及び第一志望の受検生の増加」

(1) 取組目標

ア 学校公開及び体験入学の実施

- 定期的に学校公開日を設け、保護者や地域住民に学校の教育活動を見てもらう。
- 体験入学プログラムを実施し、入学希望者に実際の授業や学校生活を体験してもらう。

イ SNS の活用とウェブサイトの充実

- 学校の公式 SNS アカウントを運営し、学校の最新情報やイベントを発信する。
- 学校のウェブサイトを定期的に更新し、魅力的なコンテンツを提供する。

ウ 在校生・卒業生の活用

- 在校生のインタビューや体験談を SNS やウェブサイトで紹介する。
- 卒業生の成功事例を紹介し、学校の魅力をアピールする。

エ 地域との連携

- 地域のイベントに積極的に参加し、学校の存在感を高める。
- 地域の企業や団体と連携し、教育プログラムを充実させる。

オ 特色ある教育プログラムの開発

○学校の特色を活かした独自のカリキュラムを開発する。

○専門家を招いた特別講座やワークショップを開催し、生徒の興味を引き出す。

(2) 具体的方策

- A ホームページの活用（学校の様子を可視化、積極的に発信、年360回以上更新）
- B 学校紹介動画の活用（「#だから都立高」のコンテンツを活用）
- C 生徒主体の学校見学会・学校説明会（年5回程度、来校者と本校生徒の直接交流の機会を提供）
- D 生徒が主役の活気あふれる学校づくり（学校行事の運営や地域貢献活動に携わる機会を提供、通年）
- E Tokyo Global Gateway の活用（希望者）
- F 本校近隣の大学と連携した海外留学生との交流活動（希望者）
- G 手紙やビデオレターを活用した海外高等学校との交流活動（希望者）
- H 訪日高校生徒の学校訪問受け入れ（年1回以上）
- I 東北防災スタディツアーの実施（希望者対象、8月）
- J 中学校主催の説明会や外部相談会への参加（年15回程度）私塾訪問（年30件程度）
- K 接遇の改善（玄関の美化、来賓用下駄箱の宛名明記、案内表示の設置など、来校者への丁寧な対応）

7 組織運営「盤石な組織体制の構築」

(1) 取組目標

ア 明確な役割分担と協力体制の強化

○各教職員の役割と責任を明確にし、文書化する。

○定期的なチームミーティングを開催し、情報共有と協力を促進する。

イ 意思決定プロセスの透明化と迅速化

○意思決定のプロセスを公開し、関係者全員が理解できるようにする。

○意思決定のためのフローを簡素化し、迅速な対応ができるようにする。

ウ 学校運営におけるリーダーシップの強化

○リーダー層に対するリーダーシップ研修を実施する。

○リーダーシップを発揮する機会を増やし、実践的なスキルを養う。

エ 継続的な学校評価と改善の実施

○定期的な学校評価を行い、結果をもとに改善策を立案する。

○評価結果に基づいて、具体的な改善策を実施し、その効果を検証する。

オ 教職員の専門性向上と研修の充実

○教職員の専門性を高めるための研修プログラムを提供する。

○最新の教育方法や技術に関する研修を定期的実施する。

(2) 具体的方策

- A 悉皆研修、企画調整会議、職員会議、一斉メール送信等を通じた、計画的・継続的な服務研修
- B 組織目標の設定、中間総括と年間総括、弾力的な進行管理（年3回以上）
- C 電子起案の推奨、迅速で確実な文書管理の徹底（通年）
- D 校務や各事業等に関する基礎資料やフローチャート等、情報の電子化及び共有化
- E スクール・ミッションの理解促進、グランドデザインの見直し（年度当初）
- F 学校評価結果を反映させた学校運営の改善（随時）
- G 教科主任会の適時開催（学期に2回程度）
- H 教科会の定例化（月1回程度）
- I 計画的な予算執行管理（通年）
- J 都教委主催マネジメント研修の計画的受講（リーダー発掘）

8 働き方改革「働きやすい職場づくり」

(1) 取組目標

ア 勤務時間の適正化（長時間労働の是正）

- 勤務時間を適正に管理し、長時間労働を防止するためのシステムを導入する。
- 定期的な休暇を奨励し、教職員のリフレッシュを促進する。

イ 業務の見直しと負担軽減

- 現在の業務内容を見直し、不要な業務を削減する。
- 業務プロセスを改善し、効率的に業務を遂行できるようにする。

ウ ICT の活用と業務効率の向上

- 教職員が業務を効率的に行えるような ICT ツールを導入する。
- 書類のデジタル化やオンライン会議の活用を推進する。

エ 働きやすい職場環境の整備

- 快適な職場環境を整備し、教職員が働きやすい環境を提供する。
- メンタルヘルスのサポートを充実させ、教職員の健康を守る。

オ 学校・保護者・地域との協力体制の構築

- 学校、保護者、地域との定期的なコミュニケーションを強化する。
- 地域のリソースを活用し、協力体制を構築する。

(2) 具体的方策

A ペーパーレス化の推進

文書や資料の電子化、データの共有化、起案の電子化、情報伝達ツールの活用

B 諸会議の効率的な運営

目的、論点、所要時間等を明確にし、事前に日程や必要な内容を調整した上で開催

C 産業医との連携

業務縮減の具体策の指導・助言、心身の健康維持に関する指導・助言

D グループワークの導入

日常業務や校内研修でのグループワークにより、教職員間のコミュニケーションを活性化

E 相談環境の整備

相談窓口の明確化・周知

F 働きやすい職場環境構築

お互いが話しやすく、助け合い、過剰な負担を誰かに強いることのない業務体制

G 相互尊重と礼儀の徹底

お互いを尊重する文化の醸成、及び礼を尽くすことの重要性の認識

H 感謝の気持ちの表現

明るいまえの励行、及び相手の好意や助力に対する感謝の表現

I 健康維持のための取組

定期健康診断の適正実施、ストレス管理のためのプログラム導入

J 保護者連絡ツール（Classi）の活用

朝の欠席連絡や学校からのお知らせの発信を効率化

第4 数値の経年変化と今年度の目標

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度目標
授業満足度(%) (学力伸長)	78	▼65	△67	△80	85
英検準2級以上合格者数 (人)	22	△63	△105	△114	200
漢検準2級以上合格者数 (人)	41	▼21	▼15	△25	30
夏期講習講座数(講座)	19	▼13	△42	37	40
生徒の1日平均 家庭学習時間(分)	60	▼34	▼19	△35	60
大学入学共通テスト受験者 (%)	22	22	△25.8	△27.1	30
現役進路決定率(%)	98	△98.4	▼95.1	△95.3	96
大学一般進学者 (現役)(%)	24	△26	▼21.4	▼17.9	20
私立大学(GMARCH) 現役合格者数(人)	18	▼10	※5	△10	12
私立大学(成成武明学) 現役合格者数(人)	5	5	※3	▼2	5
私立大学(日東駒専) 現役 合格者数(人)	12	△22	※15	△20	25
私立大学(大東亜帝国) 現役合格者数(人)	58	△87	※51	△95	100
就職者数(うち公務員数) (人)	4(1)	△7(2)	△11(5)	▼4(2)	5(3)
特別支援教育に関する 委員会の開催回数(回)	10	10	▼7	△13	15
部活動加入率(%)	74	▼68	68	△73	75
学校満足度(生徒)(%)	86	▼69	△76	△84	85
学校満足度(保護者)(%)	86	▼84	△87	▼85	85
本校第一志望者の割合 (%)	84	▼72	△76	△86	88
学校説明会等参加者数 (本校実施分)(人)	1,376	▼1,353	△1,836	△1,989	2,000
中学校進学対策委員会 志願倍率(倍)	1.14	△1.19	△1.26	▼1.16	1.20
入学選抜応募倍率(推薦) (倍)	2.70	▼2.30	△3.13	▼2.66	2.80
入学選抜応募倍率(第一次 募集)(倍)	1.33	△1.45	△1.50	▼1.21	1.25
ホームページ更新回数 (回)	259	▼212	△222	△348	360
一般需用費のセンター 執行率(%)	59.1	▼56.22	▼46.25	50.92	53.00

備考 △前年度より数値が上昇 ▼前年度より数値が下降

※令和5年度卒業生7クラス(その他は8クラス)